静かだった、大きかった世界の禅。驚きと感動と、そして楽しかった7日間！

SOTO禅インターナショナル 海外徒弟研修会の思い出

SOTO 禅 インターナショナル

発行日 2015年12月1日　発行人 田宮隆光
編集担当 佐藤碧真
発行所 SOTO禅インターナショナル事務局
〒474-0052 愛知県大府市長草町本郷40 地蔵寺内
Tel. 0562-46-1963 Fax. 0562-44-4936 URL: http://www.soto-zen.net/
郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

2015年
Vol.56

特集　大本山永平寺ワークショップ抄録
「イスラム過激派とは（仏教徒としての対応）」

海外徒弟研修会にて好人庵禅堂を訪問中、秋葉玄吾総監を囲んで

巻頭

曹洞禅の未来を育む

曹洞宗宗務総長　釜田隆文（かまた りゅうぶん）

SOTO禅インターナショナル会員の皆様に於かれましては、平素より宗門の国際布教活動にご協力を賜りまして感謝申し上げます。

本年の曹洞宗の国際布教活動において、「育む」というテーマを掲げております。「育む」とは、すなわち未来の世代の宗侶の育成であります。 宗門の人材育成の要は、現代に至るまで変わることなく、僧堂修行がその中心であり続けて参りました。

海外にはこれまで、宗立専門僧堂という形で一時的に専門僧堂が置かれたことがありましたが、常設の専門僧堂は未だ嘗て置かれたことがありません。現在、北アメリカ国際布教総監部管内においては、常設の専門僧堂設置を目指した天平山禅堂プロジェクトが進行中であり、本年6月13日にはカリフォルニアの美しい青空の下、僧堂上棟式が厳修されました。ここに常設の専門僧堂が完成すれば、海外で宗侶育成が可能となり、まさに画期的な出来事となりましょう。

また、本年は国際的な人材の育成を目指し、7月27日から5泊7日の日程でSOTO禅インターナショナル主催海外徒弟研修会が北アメリカ管内にて行われましたことも、特筆すべきことであります。次世代を担う若者たちが海外で曹洞禅の新しい息吹を感じ、国際的な人材として未来の国際布教活動の担い手となることを期待しております。

さらに、大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師650回大遠忌に際しては、5人の国際布教師が焼香師をお勤めになりました。この法要のために国内外から参列された多くの方々も、後進の育成に尽力された峨山禅師のご遺徳を偲ばれたことと思います。

世界に展開する曹洞宗にとって国際的な人材の育成は不可欠となっており、海外での僧堂教育の需要も高まっております。この「育む」をテーマとした活動が未来の曹洞禅の礎となることを切に願っております。

合掌

SZI会長挨拶

2015年度の活動を通して

田宮隆児（たみやりゅうじ）（SZI会長・新潟県興源寺住職）

今年2月に会長に就任させていただきましたが、早いもので既に次年度の総会の準備に入る頃となりました。SZIの活動を支援してくださる皆様のお蔭を持ちまして今年度の事業も順調に進んでおります。

7月下旬には成田空港にてサンフランシスコへ向かう海外徒弟研修会参加者の見送りをしてまいりました。研修先であるサンフランシスコ・ベイエリアへは、副会長黒柳先生ご夫妻がご同行して下さることにより何の不安もなく子どもたちを見送ることが出来ました。参加者同士初対面が多い中、6人の子どもたちは緊張しながらも、少し興奮気味に成田空港の搭乗ゲートへ向かった姿は頼もしく、またSZIの活動が未来へと繋がっていく予感を感じることが出来ました。第1回目の海外徒弟研修会の開催にあたりましては、宗務庁国際課、国際センターのスタッフの皆様、現地で子どもたちを受け入れてくださった諸関係者に深く感謝申し上げます。

9月には淺井事務局長に講師をお務めいただき、大本山永平寺修行僧を対象に「イスラム過激派とは（仏教徒としての対応）」という演題のご講演をいただきました。今までとは違う切り口での講演でしたが、若い修行僧に私達が現在住んでいる世界の様々な課題に対して興味を持っていただきたいという願いを込めての取り組みでした。

私も時々、地元の20代、30代の宗侶と時間を共にすることがありますが、とかく話題は寺院の運営について、または安居時代の思い出話に偏りがちです。若手の宗侶には広い目で物事を見、いろいろなことに興味を持ってもらうことにより、僧侶の活動が社会への貢献に繋がるのではないかと思っております。

また、今年は大本山總持寺二祖峨山禅師様の650回大恩忌にあたるため大本山總持寺では年間を通じて法要が行われております。10月20日には江川辰三大禅師猊下御親修のもと大祖堂で本法要が厳修されました。その翌日、21日の夕方には国際センターの主催による国際布教師焼香団参および国際交流会が開催され、各総監部より大勢の宗侶並びにメンバーさんが集まりました。

私も久しぶりに大本山總持寺にて参籠し、参加された各国からの宗侶とともに朝課に随喜させていただきました。また参籠者のお手伝いをされている安居中の外国人宗侶の姿に接し、大変深い感銘を受けました。そして、現在の国際布教をとりまく環境が私の知っているこの30年間で大きく変わったと実感いたしました。

手紙や電報の時代から手軽に電話のやり取りが出来る時代、FAXの普及により目に見える形で情報の双方向化が進み、そして何よりもインターネットの時代に入り情報の高速化が一気に進んだことが一因だと思います。もちろん、高速情報網の普及だけでは現在の状況は成立しません。やはり両大本山の国際布教への理解、国際センターの設立と国際課を中心とする宗門の活動、各地域で活動する布教師各位の努力、日本各地において国際布教を支援してくださる皆様のお力、これらが融合して現在の状況があるのだと思います。

SZIでは引き続き若い方々へ刺激となるような活動を継続し、国際布教を支援していく所存です。また、「情報の時代」と言われる今、SZIとしては情報網を活かしながら、情報に翻弄されず、国際布教師の経験を通して培った「個と個の親密さ」を大切にして今後も活動を続けたいと思っております。

CONTENTS

▶巻　頭　曹洞禅の未来を育む……曹洞宗宗務総長　釜田　隆文　1
▶SZI会長挨拶……SZI会長　田宮　隆児　2
▶特　集　海外徒弟研修会報告
SZI主催　海外徒弟研修会報告……SZI副会長　黒柳　博仁　3
参加者感想文……4
▶特　集　両大本山ワークショップ抄録
イスラム過激派とは（仏教徒としての対応）……愛知学院大学非常勤講師　淺井　宣亮　6
▶海外レポート　①天平山禅堂プロジェクト上棟式、並びに好人庵禅堂創立20周年法要……SZI相談役　福島　伸悦　13
②ドイツ菩門寺便り……禅センター・アイゼンブッフ大悲山普門寺堂頭　中川　正壽　14
▶国内レポート　大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師650回大遠忌・ワークショップ参加報告……15
▶SOTO禅インターナショナル総会のご案内／動静報告／movieお勧め映画……16
▶SZI express　会費納入者・賛助金納入者名簿……19
▶【写真集】SOTO禅インターナショナル海外徒弟研修会の思い出……20

特集　海外徒弟研修会報告

SZI主催　海外徒弟研修会報告

引率者　黒柳博仁（くろやなぎはくじん）（SZI副会長・長野県天周院住職）

アメリカにおける禅センター草創の地、カリフォルニア州サンフランシスコを巡って、SZI主催「海外徒弟研修会」が、去る7月27日から8月2日まで開催された。宗門子弟に、日本特有の寺院環境とは異なる角度から、世界的に広がる禅の世界に触れ、仏教に対する新鮮な興味とより広いセルフイメージを持ってほしい。そんな願いを込めて企画した今回の研修旅行には、高校1年生から小学4年生の男女6名が参加してくれた。

最初の訪問地はソノマ・マウンテン禅センター現成寺である。サンフランシスコ空港から車で北へ約2時間。世界的なワイン産地の広大なブドウ畑を走り抜け、車窓に差し込む陽光が豊かな森に遮られるとそこに静寂の禅苑が現れた。現成寺はアメリカ初のサンフランシスコ禅センターを開かれた故・鈴木俊隆老師の法孫、寂照クワン夫妻が創建し、現在は子息の如是クワン夫妻と小学2年の孫の三世代家族が常住する、欧米では珍しい家庭的な禅センターだ。アメリカのみならず、ヨーロッパ各地からも集まった20名以上の安居者が、その家風よろしく私たちを温かく迎えてくれた。日本の子どもたちがインド古来の作法をポーランド人に教えてもらい、アメリカの禅堂の本尊仏に初めての五体投地の礼拝をして研修会が始まった。まさに法縁の世界的な広がりを実感する光景だ。その一方で、初日の夕食、玄米ご飯とゴマ塩、緑色をしたスクアッシュのポタージュスープ、スイカを味わうと、わずか20時間前に飛び立った日本との隔たりがいかに大きいかを改めて思い知らされる不思議な感覚であった。YURTと呼ばれるチベット式の円形テントが子どもたちの居室に当てられ、その中で輪に並んだベッドで眠る。それは子どもたちにとってワクワクするような異空間であっただろう。

時差による体調を考慮して明朝の暁天坐禅は「無理せずに休んでいいよ」と言ったが、皆自主的に参加してくれた。YURTから屋外に出て坐禅堂へ向かう道はまだ真っ暗で、太陽電池の小さな灯が足元を照らすのみ。満天の星空の下を歩くのである。シャワー室やトイレへも同じように星空の下を歩いていく。森からは野生の鹿の親子も姿を現す。このような自然の只中で人が静かに坐る時間に、子どもたちはとても強い感銘を受けたようだ。

平成27年　海外徒弟研修会日程

7／27(月)　成田空港出発、SF国際空港到着
曹洞宗国際センター、桑港寺、ソノママウンテン禅センター現成寺
7／28(火)　現成寺にて研修
7／29(水)　グリーンガルチファーム蒼龍寺経由サンフランシスコ禅センターへ
7／30(木)　ミュージアム、市内観光等
7／31(金)　遊園地、好人庵禅堂
8／1(土)　SF国際空港出発
8／2(日)　成田空港到着

参加者／亀野哲舟（神奈川県・高校1年）、淺井怜衣（愛知県・中学3年）、田宮友太（新潟県・中学3年）、黒柳こころ（長野県・中学2年）、福島慶悦（埼玉県・中学2年）、黒柳雄仁（長野県・小学4年）

如是師の奥さんには特に親身にお世話頂き、森への散歩、マーケットでの買い物体験、スヌーピー博物館、夜坐の後には、マシュマロを炙るスイーツ作りのお楽しみも用意してもらった。子どもたちに応量器の作法を教えてくれたのも彼女である。その英語は言語の違い以前に「お母さんの響き」だ。子どもたちも落ち着いてその作法をならい、2日目の晩からすぐに応量器を使うことが出来たのには驚いた。

現成寺の後、街の中心にあるサンフランシスコ禅センターへ拠点を移した後半のプログラムではアメリカの都市文化に触れ、体験型科学教育施設や遊園地にも出かけたが、子どもたちが「一番面白かった」のはこの禅センターでの生活で、「あそこにもっと居てもよかった」と異口同音の感想を言うのであった。彼らが何に魅力を感じたのか、理由は様々であろうが、禅センターの堅苦しい研修はさぞ気が重いだろう、とばかり心配していた引率者としては、それは嬉しい誤算であった。

欧米の禅センターの人々はどこでも皆本当に親切だ。初心者も先輩も平等に大切にし合う。それが禅センター発展の要因であったことは想像に難くない。ただそれは

功利的な作為ではない。鈴木老師が「禅マインド・ビギナーズマインド」で著された、そうあるべき深遠な哲理が欧米の禅センターに息づいているのだ。子どもたちもそのことを肌で感じたのではないかと思う。そして、たとえ子どもであっても修行者として敬意を払ってくれる親切で気高い大人たちに囲まれ、その人たちが目指すものの崇高さを感じ取ったのではないだろうか。全く私見であるが、子どもたちはそれに共感してくれるのでないかという気がしてならない。

最後に、側面から多大な支援を頂いた曹洞宗宗務庁、国際布教センター、北アメリカ国際布教総監部、桑港寺、訪問先の禅センターの関係各位、特に、コース選定・事前調整・当日の引率等万般にわたってご尽力いただいた国際布教センター伊藤祐司師に深甚の謝意を表し、報告を終わる。

参加者感想文

神奈川県貞昌院　亀野　哲舟（高校1年）

シーンと静まりかえった坐禅堂、整然と並べられた坐布、線香の香り。ここは日本か？と錯覚するほどソノマ禅センターは落ち着いた場所だった。そこでは黒い衣の僧侶が二十人ほど修行していた。中には、ポーランドから来たという人もいた。出される食事は精進料理だったが、イースト菌やマッシュルームソイソースなどを使い、肉の風味を出す工夫があったことに驚かされた。

サンフランシスコ禅センターでは、伊藤先生にずいぶんとお世話になった。ここでは初めて四十分間もの坐禅をした。

ぼくは中学生の時、修学旅行でオーストラリアに行ったことがあったが、その時はトヨタやソニー、スシ等、目に見える日本製の物の進出ばかりに気を取られていた。しかし、今回の研修では、物ではないメイドインジャパン、精神修養としての禅の広まり、そしてそれを広めている僧侶たちがいるということに気付かされた。静かな、大きな禅の力を目のあたりにした七日間だった。

愛知県地蔵寺　淺井　怜衣（中学3年）

私は今回海外徒弟研修に参加し、驚いたことが二つあります。一つはお経です。現地でお経が英語で唱えられていることを知らなかったので、非常に衝撃的でした。けれども英語のお経に触れ、今まで知らなかったお経の意味について、考えてみることができました。

もう一つは精進料理です。私が思い描く料理と違い、まったく口にしたことのないような料理だったため、初めは箸が進みませんでした。しかし滞在日数が増えるにつれ、現地の人が考える精進料理を楽しむ余裕が生まれました。

今回の研修は、五日間という短いものでしたが、アメリカの仏教に直に触れ、想像以上に内容の濃い体験ができました。しかし、禅センターでは、私語を禁じている場面が多く、一緒に参加したメンバーと交流する時間が少なかったのが少し残念でした。しかし、このことも含め、経験したことすべてかけがえのない思い出です。今後もこのような企画があったら、是非また参加したいです。

新潟県興源寺　田宮　友太（中学3年）

七月二十七日から八月二日までベイエリアに滞在して一番有意義だったのは、ソノママウンテン禅センターでした。

なぜかというと、僕の研修会での目的の一つだった精進料理を食べ日本とアメリカの味の違いを比べるということが体験できたからです。実際食べてみると、アメリカの精進料理の味は日本より濃くて驚きました。精進料理に使われている野菜は、禅センターの農園で有機農法で作られていました。

禅センターは有機農法を使い自然と一体化して、感謝しているようなことを感じさせられました。また、そこでは夜空がきれいだったり、農園で仕事をさせてもらったりして、ぼく自身もそこで自然と触れ合いました。

禅センターの方々が親切で、人とコミュニケーションを取る事が必要だと感じました。

来年もしあったら、僕は参加したいです。

埼玉県長光寺　福島　慶悦（中学2年）

サンフランシスコの海外徒弟研修において日本の仏教がアメリカでどのように布教されているかを学ぶことができました。サンフランシスコの徒弟研修で印象に残ったことは、応量器の体験と英語で読んだお経です。特に英語で読む般若心経はアメリカでしかできない体験だったので印象に残りました。英語の般若心経は日本で読む般若心経とは違って読んでいるとなんとなく内容がわかりました。

ソノマ禅センターでは応量器を体験しました。応量器の使い方や音を立てない、みんなのペースに合わせるなど細かいことがたくさんあったので苦労しました。ソノマ禅センターでの自然や夜景はとてもきれいでした。ここでの夜景は都会では見られないような美しさでした。そして朝起きると星がかすかに残っていて、朝日に照らされた木々が輝いていてとても感動しました。アメリカで食べた精進料理は日本の精進料理と少し違いました。アメリカではスムージーやパスタなどが出ていました。日本で食べた米と野菜を想像していた僕はとてもびっくりしました。だけど味は良く、畑で作ったという野菜がおいしかったです。

サンフランシスコでは日本と違う仏教を学び、そして貴重な体験をすることができました。ソノマ禅センター、サンフランシスコ禅センター、そして現地のお坊さんたちにはたくさんのことを教えていただいたのでとても感謝しています。これらの体験はいろいろな人の協力と支援などによって行えたのだと思います。この貴重な体験を生かすことができるようにしたいです。

特集　両大本山ワークショップ抄録

大本山永平寺ワークショップ（平成27年9月10日実施）より要約・抜粋

イスラム過激派とは（仏教徒としての対応）

愛知学院大学非常勤講師　淺井宣亮（あさいせんりょう）（SZI事務局長・愛知県地蔵寺住職）

①「宗教とは」

イスラム教・仏教の特徴を考える前に、「宗教」の定義について考えてみたいと思います。宗教の定義は様々ですが、その一つに「聖なるものと人間の関係を表したもの」というものがあります。これはどんな意味でしょうか。

通常、人は「自由」を好み、「束縛」を嫌います。しかし、本当にそうでしょうか。自由は「不安定」とも言えますし、束縛は「安定」とも言えます。人は「不安定」であるよりも、「安定」を求めるのではないでしょうか。

人は安定や安心を求め、富・名誉・恋人・趣味などに頼ろうとします。しかし、常に変化する現実世界の中では「完全な安定」は不可能です。富が無くなってしまうこともあるでしょうし、名誉を失うこともあります。例えば、大統領や首相になったとしても、当初の人気がずっと続いていくことは少ないでしょう。また、いくら世界的に有名なスポーツ選手でも、年齢やケガなどによりいつかは引退しなければなりません。

現実世界の中のものに頼り、安定・安心を求めても、完全な安定や安心は得られません。そこで、現実世界ではない「聖なるもの」に頼るということが生じます。宗教学でいう「聖」とは、善悪は関係なく、神・悪魔・天国・極楽浄土・地獄などといった「現実世界ではないもの」という意味です。「聖なるもの」に頼れば、裏切られることはありません。

例えば、「神はいる」という信仰は、否定されることはありません。神はこの世のものではありませんので、「神はいる」と証明することが不可能である一方、「神はいない」と完全に証明することも不可能です。したがって、「神」の存在を信じることが出来れば、完全な安定を手にすることが出来ます。人生でどんな苦難に出会っても、「これは神が自分に課した修行だ」と思うことが出来ます。

仏教の場合は、「諸行無常」を信仰しているとも言えるのではないでしょうか。「すべては無常である」ということは「創造神といったような永遠の存在を認めない」という意味にもなります。しかし「神はいない」ということは証明することは出来ないので、世界（聖なる世界も含めて）が本当に無常であるかどうかを完全に証明することは出来ません。したがって、「諸行無常」も「聖なるもの」であり、「信仰」でしょう。禅宗の「坐禅功徳」も、広い意味では「聖なるもの」と言えるのではないでしょうか。

②イスラム教の特徴

次に、イスラム教の特徴を考えてみたいと思います。イスラム教はユダヤ教・キリスト教と同一の神を信じています。ユダヤ教・キリスト教・イスラム教は兄弟宗教と言え、この三宗教を聖書宗教・預言者アブラハムの宗教・砂漠の宗教と呼んだりします。

それでは「砂漠の宗教」とはどんな意味でしょうか。砂漠では個人で生きることは難しく、生き残るためには団体行動が基本となり、「部族」でまとまる必要があります。また砂漠で生きていくためには、迅速な判断も必要となるため、強いリーダーシップが求められます。したがって部族の「族長」は強い権力を持ち、同時に大きな責任も負っています。民主主義・多数決・少数意見の尊重といった考え方では、砂漠で生き残るための迅速な判断は難しかったのです。

このような環境で生まれた宗教には、「理想の族長」とも言える「唯一神」という特徴が有ります。強いリーダーシップを持ち、「自分（神）を信じれば天国へ行ける」と説きます。その一方で、「信じないものは地獄へ行く」という排他的な要素も含みます。そしてイスラム教は、三宗教の中でも「砂漠の宗教」の特徴を強く残しています。

次に、イスラム社会の特徴の一つに、宗教と政治の関係があります。イスラム教の預言者ムハンマドは、宗教家であると同時に、有能な政治家でもありました。その影響で、イスラム社会では現在も、宗教勢力と政治権力が同一である場合が多く、宗教と政治が結び付いています。

③仏教の特徴

それでは、仏教はどんな特徴を持った宗教なのでしょうか。仏教はインドという高温多雨の国で生まれました。このような環境下では、森の中でも「個人」で生活していくことが可能です。雨期には一ヵ所に集まりましたが、生活しやすい乾期には各自修行に励みました。なお、「安居」とは雨期を意味する梵語の漢訳です。

その結果、仏教は多様性を認めるという特徴を持ちます。八万四千の法門・山規山風といった言葉もあります。このような性格から、仏教は砂漠の宗教と比較して、信者を強く引っ張っていくという面が弱くなります。しかしこのことは欠点ではないと思います。「自分だけが正しい」と主張した場合、信者に安心をもたらしますが、他者との摩擦（宗教紛争）が生じる場合もあります。それぞれの宗教の特徴であって、優劣ではないと思います。

薬に例えれば、砂漠の宗教は「非常に効くが、副作用に注意」、仏教は「穏やかな効き目の漢方薬」とも言えるのではないでしょうか。仏教に精通していたとされる聖徳太子の「和を以て貴しとなす」、つまり他者と話し合い理解するという姿勢は、今後ますます重要になっていくのではないでしょうか。

また、釈尊が生まれた際に「天上天下唯我独尊」と言われたという言い伝えがありますが、この言葉も仏教の特徴を表していると思います。人間は一人ひとりが尊い存在（オンリーワン）であり、人生の主人公であるという意味です。しかし、各自が主人公ということは、「他人は自分の思い通りにはならない」ということと表裏一体だと思います。このような状況で気持ちよく生きて行くコツは、他人に対して命令するのではなく、「愛語」ではないでしょうか。道元禅師も『修証義』（『正法眼蔵』「菩提薩埵四摂法」）の一節で「愛語よく廻天の力あることを学すべきなり」と述べられています。

少し話が変わりますが、人間は皆「唯我独尊」であることを自覚し「愛語」を忘れないという姿勢は、他人のためではなく、自分自身のためです。仏教とイスラム教をはじめとする一神教では、戒律を守る理由が異なります。一神教では、戒律は「神が定めたものだから」守ります。殺したり、盗んだりしてはいけない理由は「神が定めたものだから」と「信じる」からです。しかし、仏教では永遠の創造神を認めません。そのため戒律を守る理由は、「理屈が通っているから（自分自身のためになるから）」と「考える」からです。「信仰」ではなく「思惟」という姿勢が根底にある仏教は、西欧社会では仏教を宗教では無く、哲学（印度哲学）と捉えられたりします。これも仏教の特徴の一つでしょう。

④アラビア社会の状況

話をイスラム教の現状に移したいと思います。世界のイスラム教徒の約9割がスンニ派（スンナ派）に属し、約1割がシーア派に属します。以前は、主流派のスンニ派は穏健、少数派のシーア派は過激といった理解がされていたこともありました。しかし現状は、スンニ派・シーア派・スンニ派武装組織（イスラム国、タリバン、アルカイーダ等）が利権を求めて対立し、敵の敵は味方ではなく、敵の敵も敵という状態で混迷しています。団体行動が基本の砂漠社会におけるこのような宗教紛争の状況は、日本人にとっては、いわゆる暴力団闘争のようなものと考えると理解し易いかもしれません。

ところで、宗教紛争という言葉を使いましたが、紛争の原因が「宗教の教義」であるものは少ないと思います。ほとんどは経済的理由（利権）が要因ではないでしょうか。アラビア社会の場合、油田が多くありますから、その利権も大きなものとなります。

また、テロも頻発しています。テロとはどのようなものなのでしょうか。テロは弱者が強者へ抵抗するための手段の一つです。強者同士の争いは「戦争」と呼ばれます。テロは、戦争の敗者や弱者が、権力者へ抵抗する方策です。したがってテロを実行しようとする者が少数でも存在する限り、テロを完全に無くすことは難しいと思います。

そしてテロの目的の一つに「存在のアピール」があります。イスラム国が捕虜を殺害する理由も「宣伝（PR）」という側面があります。日本人捕虜も殺害されました。この際イスラム国は身代金を受け取ることは出来ませんでしたが、結果的にイスラム国は大きな利益を得ています。連日、新聞やニュース・ワイドショーなどで取り上げられました。これだけの宣伝を打とうとしたら、莫大な費用が必要となります。宣伝分の利益を得たと考えれば、彼らにとっては大きな成功でしょう。社会に不満を持ち「有名な」イスラム国に加入したいと考える人もいるのではないでしょうか。

また、「社会から嫌われる」こともテロ組織にとって無意味なことではありません。組織は外部に敵がいると、内部の団結力は上がるものです。日本でもかつてオウム

真理教がサリン事件を起こしました。その際、マスコミがオウム真理教のバッシングを行えば行うほど、教団内部の団結力は上がりました。

そして「イスラム教徒が嫌われる」ことも、同様にテロ組織のメリットになります。多くのイスラム教徒が偏見の目で見られ迫害されるようになれば、極少数の者でしょうが、その不満をはらすためイスラム国に魅力を感じる者も出てくると思います。

⑤近年の歴史

次に、近年の歴史を振り返ってみたいと思います。詳細に述べると複雑になってしまいますので、今回は大まかな概観にし、イスラエル（ユダヤ教）関連には触れません。

1979年　イラン革命（ホメイニ）
1980年　イラン・イラク戦争（ホメイニvsフセイン）
1990年　イラクのクウェート侵攻（フセイン）
1991年　湾岸戦争（多国籍軍vsフセイン）
2001年　9.11同時多発テロ（ビンラディン）
2003年　イラク戦争（ブッシュvsフセイン）
2010-2012年　アラブの春（反政府デモ）
2014年　イスラム国（IS）の勢力拡大（バグダーディー）
2015年　欧州難民危機

＊1950年代よりイランはアメリカ合衆国の援助を受けてきました。これは、イランがソビエト連邦の南に位置するため、対ソビエトという理由です。そして当時のイラン皇帝は脱イスラム化・世俗化という政策をとり、国営企業の民営化や女性参政権などの改革を進めました。その一方で皇帝に反抗する人々を、秘密警察を使って迫害し、近代資本主義と相容れないと思われるイスラム教勢力を弾圧したりしました。このため、当時の政府はアメリカ政府の傀儡であると思われ、民衆の不満も高まります。

＊1979年になると、民衆の不満の高まりを背景に、ホメイニによるイラン革命が起こります。ホメイニは他国からの搾取を止めるため石油資本を国有化し、イスラム教を厳格に守るシーア派の国家を樹立しました。その結果、アメリカ石油資本やアメリカ軍はイランから追放されることになります。そしてイランはこの後、極端な反欧米活動を展開します。そのため、欧米や親米派のアラブ諸国もイラン革命の影響が広がることを恐れました。また、この影響は当時イランより多くの石油を輸入していた日本にも及び、第2次オイルショックが起こります。

＊1980年になると、イラン革命の影響を嫌った隣国イラクがイランに侵攻し、イラン・イラク戦争が起こります。イラクはイランと同じくシーア派住民が過半数を占める国ですが、1979年よりスンニ派のフセインが大統領でした。しかしイランの反撃は激しく、戦争はイラン有利となっていきます。そこでアメリカは、イラク（フセイン）に対して軍事支援を行い、イランそしてシーア派の影響力が拡大することを防止しようとします。結果として戦争は長期化し8年間にわたることとなり、両国の経済は疲弊しました。この戦争でイラクは軍事大国になりましたが、経済的には困窮し、インフレや物不足に悩むことになります。

＊1990年には、イラクのフセインがクウェートに侵攻します。フセインは国内経済を立て直すため、石油価格の引き上げを目指しました。同じく戦後復興で苦労していたイランやサウジアラビアなども、価格引き上げに同意しましたが、クウェートは応じずに低価格増産を続け、石油価格の低下を招きました。そこでイラクは「クウェートはイラクから石油を盗掘している」と言い掛かりをつけクウェートに侵攻します。

当時（1989年）アメリカとイラクは非常に友好的な関係で、アメリカは多くの原油をイラクから輸入していました。国際社会でフセインがクルド人を化学兵器を使用して弾圧していると非難されていても、経済的影響を恐れるアメリカは具体的な行動は起こさず、警告をする程度でした。このような状況から、フセインは「多少過激な行動をしてもアメリカ政府は静観してくれる」と考えていたようです（『イラクとアメリカ』酒井啓子 2002年）。しかし、アメリカ政府もイラクのクウェート侵攻を見逃すことはありませんでした。

＊1991年になると湾岸戦争が勃発します。多国籍軍対イラクという戦争は、多国籍軍の勝利でしたが、フセイン本人を捕縛することは出来ませんでした。

＊2001年には、9.11同時多発テロが起こり、世界が驚きました。ところで、このテロを主導したアルカイダのビンラディンは、1979年のソビエトのアフガニスタン侵攻の際には、アメリカと共にソ連軍と戦っています。そして1989年にソ連が敗退するまではCIAの援助も受けていました。しかしその後、反米の姿勢に変化してい

きます。転機となったのは、湾岸戦争の際、メッカやメディナというイスラム教の聖地があるサウジアラビアにアメリカ軍が駐留したことです。ブッシュ大統領の圧力に負けて、サウジアラビアがアメリカ軍の駐留を認めたことは、ビンラディンにとって許せないことでした。以後、反米活動に傾倒していきます（2011年、パキスタンにおいてアメリカ軍に射殺されたとされています。）。

＊2003年には、第2次湾岸戦争とも呼ばれるイラク戦争が勃発します。この戦争は、アメリカのブッシュ大統領が主導し開戦しました。その理由は、イラクが国連武器査察団の調査を妨害し、湾岸戦争後も大量破壊兵器を保持している。フセイン大統領はクルド人を弾圧している。また、テロ支援国であるイラクを民主主義の国へ変えるための戦争であるとされています。

ここで問題となるのが、イラクを「民主的な国」へ変えることができるのか、ということだと思います。砂漠地帯であるアラビア社会では、先に述べたように、部族という団体を重視する風潮があります。部族は血縁が基本になっていますので、その人数の変動はあまり大きくありません。このような社会に、民主主義の基本となる「多数決」が適するかどうか疑問があります。

イラクの場合人口比率は、北部にクルド人2割・中部にスンニ派2割・南部にシーア派6割程度となります。これまでは、軍事力に勝るスンニ派のフセインが大統領となり、クルド人やシーア派住民を押さえてきました。ここで「多数決」を行えば、必ずシーア派が有利になります。したがって、シーア派住民はイラク戦争に好意的でした。日本の自衛隊も南部に派遣されましたが、好意的に迎えられています。いままで抑圧されてきた、シーア派やクルド人にとっては、スンニ派に報復できる良い機会と受け取られるのではないでしょうか。

民主主義を安定して維持して行くには、「多数決」と共に「少数意見の尊重」も不可欠です。しかし、このような状況下で「スンニ派の意見も尊重しましょう」と言われても、シーア派やクルド人が納得するとは思えません。他に方法が無かったとも言えますが、突然の「民主化」は大きな混乱をもたらし、泥沼化の恐れが強いという意見が多くありました。（2006年、フセインの死刑が執行されました。この時、シーア派住民は歓喜し、スンニ派住民は現政権を非難しました。）

アラビア社会（血縁を基本とした部族を基本とする社会）では、強い部族が弱い部族を押さえてきました。また長期政権や「独裁」という国家体制も多く見られ、民衆の不満も高まっていました。そのような状況下で「民主化」という夢は、アラビア社会に大きな影響を与えました。

＊2010年には、アラブの春と呼ばれる、大規模反政府デモが各国で発生します。アラビア社会の民主化が始まったと、もてはやされました。しかし、2012年には早くも民主化の夢はつまずき、エジプトやリビアでも国内で対立や衝突が起こります。シリアでは反政府デモの結果、スンニ派・シーア派の対立や、スンニ派武装組織（アルカイダ）の介入により、内戦状態となります。

＊2014年には、イスラム国の勢力拡大が問題となりました。イスラム国は元アルカイダ系のイスラム過激派組織で、シリア内戦の泥沼の中で勢力を拡大しました。

＊2015年現在、シリア内戦の影響で中東から欧州へ流入する難民が急増し、欧州難民危機とも呼ばれます。国連報告では、2015年7月の段階でシリア難民が400万人を超えたとされています。また、アフリカからの難民も増加し、欧州各国は難民危機の対応に苦慮しています。

⑥まとめ(仏教徒としての対応)

それでは最後に、仏教徒としての対応について考えてみたいと思います。釈迦が最初の説法で説いたとされる「八正道」の中に、その指針があるのではないでしょうか。

八正道の一つに、「正見」があります。「正見」とは、文字通り「物事を正しく見る」ことですが、簡単なことではないと思います。私達は通常、「自分の見たいように、物事を見ている」のではないでしょうか。少し不適切かもしれませんが、講義で学生に説明する際にはこんな風に例えています。

「好きな人ができると、最初はその人の良い面ばかりに目が行きます。それが恋に落ちるということです。しかし、喧嘩をした時は、相手の悪い面ばかりが目に付く。そして、「こんな人とは思わなかった」と言って、すぐに別れてしまう。ちゃんと相手の良い面・悪い面を正しく見るようにすれば、すぐに別れてしまうこともなくなるのではないでしょうか。」

ある一面だけを見て、その人全体の判断をしてしまうという傾向は、マスコミ報道や政治にも見られます。昨日まで絶賛されていた人が、些細なきっかけで罵倒される存在に急変してしまうことなどは、実際よくあります。一面だけを見ても、正しい全体の判断は出来ないと思います。

オウム真理教が「仏教教団」と自称していたため、仏教僧侶である私は海外でテロリストと疑われたことがあります。私を疑った人は「オウム真理教・仏教教団」という情報だけで判断したのだと思います。「仏教徒はオウム信者のようなテロリスト」という判断は、全く的外れな偏見でしょう。しかし私達は、無自覚の中に同様なことをしてしまっているのではないでしょうか。

「イスラム教徒とイスラム過激派」の関係は、「仏教徒とオウム信者」の関係に近いと思います。一般のイスラム教徒を怖がる必要はありません。先にも述べましたが、イスラム教徒に偏見を持つことで得をするのは、テロ組織です。「イスラム教徒は過激的」は偏見で、「イスラム教徒の大多数は真面目な信者」です。

そして、テロを恐れる必要はありません。日本に住んでいる皆さんは、危険とされる地域へ自ら行かない限り、テロに巻き込まれる確率は限りなく低いと思います。その一方、日本国内で毎年4,000人も交通事故で亡くなっています。正しく考えれば(正思惟)、テロに巻き込まれることを心配するより、交通事故に遭わないように注意した方がずっと効率的です。これは日本に限ったことではなく、アメリカやヨーロッパでも同様でしょう。紛争地帯や内戦状態の国と、それ以外の国では、テロに巻き込まれる確率は全く異なります。杞憂してもしょうがありません、意味のある心配をしましょう。

余談ですが、日本では1955年をピークにして、殺人事件は減り続けています。ここ5年間も毎年減少しています。珍しい事件がニュースやワイドショーで繰り返し取り上げられると、何度もそういった事件が起きているかのように錯覚し、日本で殺人が増加しているという印象を持ってしまいます。テロについても同様ではないでしょうか。日本国内でイスラム過激派が関係している可能性がある事件は、1991年の『悪魔の詩』訳者殺人事件だけです。国内で一般人がイスラム過激派のテロに巻き込まれたことはまだありません。

最後になりますが、愛語(正語)がテロを減らす可能性を持つということは忘れないで頂きたいと思います。自分に優しい社会に対してテロを起こす人はいません。弾圧・差別・迫害などの不満が重なり、テロへと結び付きます。愛語には、こういった負の連鎖を断ち切り変えていく力があります。「情けは人の為ならず」ということわざがあります。これは「他人に親切にすれば、いずれ巡って自分に返ってくる」という意味ですが、同様に「愛語も人の為ならず」でしょう。「愛語よく廻天の力あることを学すべきなり」です。

修行僧の感想(抜粋)

■講演の感想(自由記述)

○「イスラム教過激派」についての講演だったので、とても為になった。同じ宗教という括りの中だが、考え方や価値観が違う中でそれぞれを比較しながら論ずる展開だったので分かりやすかった。世界に起こるいろいろな問題(今は難民問題もあるが)に対して、一宗教者として、曹洞宗の一僧侶としても、これからどのように考え対応・行動していくかの指針が見えたような気がする。(宮崎県・26年)

○イスラム教といえばテロのイメージがあるが、それも少数派によるものであり、イスラム教の大多数が真面目な信者であることを知り、自らのイメージというものはいかに信用に足るものではないということを認識した。(京都府・27年)

○現代における宗教間での抗争について理解を深めることが出来た。特にイスラム教の特色、イラク戦争などの経緯が理解できた。自分たちの宗教・仏教だけでなく、他の宗教も知ることが必要だということを痛感した。(宮城県・26年)

○自分の中にあったイスラム教についての苦手意識や偏見が和らいだ。一時間半のわずかな時間の中にイスラム教の歴史や仏教との違い、仏教徒としてどうしていくべきかまで盛りだくさん過ぎたので、一回限りでなく講義を聴けたらとも思った。ぜひ次のＳＺＩ講義にも随喜出来ればと思う。(埼玉県・25年)

○愛知学院の教授が講師だったので話が分かりやすかった。内容や話し方も硬すぎなくてよかった。今までなんとなく理解していなかったイスラム教のことや、9.11等のテロのこともよく理解できた。(長野県・27年)

○イスラムが戦争をしていた理由が宗教的なことではなく、石油などの経済的なことだと改めて知ることが出来た。宗教もそうで、物事を一方向から見るのではなく、全体を見て理解することが大切だとおっしゃっていた。(静岡県・27年)

○仏教、イスラム教等の砂漠の宗教の特徴を経緯を交えての説明で分かりやすく、聞いていて面白い内容だった。特にその宗教の起こった地域の環境によってその宗教の根本の性格が決まるということは、これから仏教、またその他の宗教、ひいては他国の文化や人々のことを理解するにあたっての重要なポイントを学ぶことが出来たと思う。(新潟県・26年)

○社会情勢を含めた世界の宗教の事情を知ることが出来た。排他的な要素を持つ一神教を見て、「世界が仏教で統一されれば平和になるのに」と思っていたが、そうではなくて他人の信じる宗教もまたその人にとっての大切な宗教として尊重出来るような社会を作っていくために、偏見や差別のない、お互いの宗教への理解が求められると思った。(栃木県・26年)

○例え話も交えて分かりやすく宗教について講義していただき、大変勉強になった。特に浅井老師が若いころに体験した外国の禅についての話を興味深く聞かせていただいた。日本の固定観念で海外の禅を見ると、現地の人も心を開いてくれないと思う。まっさらな気持ちで学ばせていただくという姿勢が大事だと知った。くだけた話もしていただき、楽しく聞かせていただいた。(鹿児島県・25年)

○浅井先生の講義はとてもリズミカルで集中が出来、分かりやすい良い講義であると感じた。このような講義なら毎週あってもよいと感じた。イスラム教への理解が進んだ。次の講義を楽しみにしています。(和歌山県・27年)

○他宗教のことは今まで大学の授業で少し講義を聞いたことがあるくらいで、イスラム教の現状や歴史などは全くといっていいほど知識がなかった。今回の講義を聞いて、なぜ争いが起きているのか、テロが起きているのかが分かった。(愛知県・26年)

○イスラム教と仏教について、比較しながらの説明で分かりやすかった。各国の般若心経の違いや、フランスでの出来事など面白かった。(福岡県・27年)

○最近の戦争は宗教が原因のものではなく経済的な要因が強いと聞き、宗教が戦争の理由として使われていることに悲しみを感じた。宗教者として、一般的なイスラム教徒はテロとは関係ないんだと人々に広めていきたいと思った。(福島県・27年)

■曹洞宗の魅力とはどのようなものだと思いますか。(なぜ曹洞宗宗侶になりましたか。)

○飾らない。権力にすがらない。（宮城県・26年）
○布教をしたり、お檀家さんに慕われる師匠の姿が輝いて見えたから。（栃木県・26年）
○実家が曹洞宗寺院。幼いころから坐禅に親しんでおり、曹洞宗についてもっと学びたいと思った。魅力とはやはり坐禅を組むことに尽きると思う。（鹿児島県・25年）
○日常の何気ない生活を厳しい作法を用いて大切にしていること。当たり前のことこそ一番大切なんだと教えてくれている気がする。家が寺院。（北海道・26年）
○事細かな進退作法、行住坐臥すべてに修行が行き渡るという宗旨。家が寺院。（福島県・27年）
○多様性。人の自然な在り方に最も近い。（愛知県・27年）
○実家が寺院。生活の一つひとつが修行となって、生きるヒントをくれる。（静岡県・25年）
○曹洞宗、特に「坐禅」には世界の人々に一貫して通用する力がある。もっともっと本場の禅の教えを世界に伝えていく努力が必要だから僧侶になった。（宮崎県・26年）
○坐禅が一番の魅力。（北海道・27年）
○坐禅が好きなので。（石川県・27年）

■曹洞宗国際布教についてどのように思いますか。
○異文化に受け入れてもらうこと。またその過程で見えてくる自分たちが持つ特徴と偏り。井の中の蛙で終わらないためにはとても大切な活動だと思う。（千葉県・27年）
○興味はあるが、語学の壁があったり、自分の今後の人生設計への不安があり、二の足を踏んでしまうが、数多い可能性の一つとして考えたいと思う。（埼玉県・25年）
○とても意義があると思う。自分自身海外で布教活動をしてみたいと思っている。ただ英語力がないので難しいかもしれない。（和歌山県・27年）
○日本国内の仏教がもはや戒律を全く尊重しないほど堕落しているのだから、外の国に教えを広めるよりも、自国の仏教を整えてほしいので、国際布教の応援はしない。（新潟県・26年）
○世界に視野を向けることで自分の人生の選択肢がどんどん増えるような気がした。海外に行ってみたいと思った。（北海道・26年）
○海外で仏教、特に禅に対しての関心が高まっており、また国内での宗教離れも進んでいる今日、国際布教は必要だと考える。私自身、海外旅行や外国人と交流することが好きなので、禅の教えを伝えていきたい。（石川県・27年）
○曹洞宗、禅の教えを求めている人が海外に大勢いる今、海外への布教はぜひ行っていくべきだと思う。（福島県・27年）
○とても興味があるが、やはりリスクも大きいのではないかと思う。国際布教師を育成する組織としての取り組みやバックアップ体制など、サポートを充実させるべきだと思う。また本庁から本山や各僧堂へ外国人参拝者の応対をする専門常勤職員なども配置出来ると、さらに国際布教が広がっていくのではないかと考える。（宮崎県・26年）

「世界に広がる曹洞宗」北米参禅ツアー（平成28年遂行）」のご紹介

News

平成28年1月25日（月）～1月30日（土）まで、4泊6日の北米参禅ツアーが開催されるそうです（旅行企画・実施／東武トップツアーズ株式会社法人営業部静岡支店、協賛／曹洞宗北アメリカ国際布教総監部・曹洞宗国際センター、協力／曹洞宗宗務庁）。

このツアーでは、サンフランシスコ・桑港寺、国際センター、ソノママウンテン禅センター現成寺、グリーンガルチファーム蒼龍寺、サンフランシスコ禅センター発心寺、好人庵禅堂など、海外特別寺院を含む5ヵ寺を拝登し禅センターを訪問する予定です。ソノママウンテン禅センターでは暁天坐禅・朝課にもご参加いただき、天平山禅堂建立地も訪問とのこと。皆様におかれましては、宗旨の坐禅が「Shikantaza」として現地に根付いていることを実体験として触れる機会になることと思われます。

旅行代金298,000円とのことですが、詳細につきましては東武トップツアーズ株式会社法人営業部宗教営業推進室（曹洞宗宗務庁内分室）電話03-3451-0895までお問い合わせください。

… 海外レポート① …

天平山禅堂プロジェクト上棟式、並びに好人庵禅堂創立20周年法要

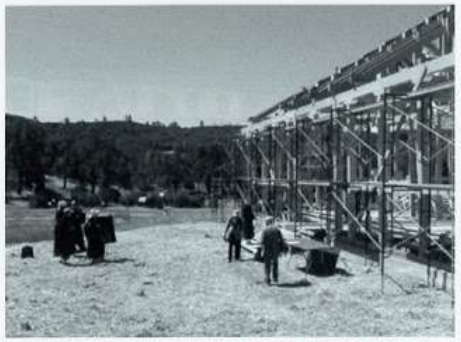
福島伸悦（ふくしま しんえつ）（SZI相談役・埼玉県長光寺住職）

去る6月13日（土）アメリカ・カリフォルニア州レイク郡モーガンバレー（サンフランシスコから車で約3時間半）の広大な土地で、天平山禅堂の上棟式が厳修されました。大本山永平寺副貫主・南沢道人老師が導師のもと、大本山永平寺後堂・齋藤芳寛老師、大本山總持寺後堂・前川睦生老師、曹洞宗宗務庁教化部長・中村晃自老師、ハワイ国際布教総監・駒形宗彦老師、ヨーロッパ国際布教総監・関口道潤老師、南アメリカ国際布教総監代理・佐藤鴻舟老師、曹洞宗国際布教センター所長・藤田一照老師、そしてASZB（北アメリカ国際布教総監部の現地法人）に所属している国際布教師の皆様、日本からの法友の皆様のご随喜により盛大に執り行われました。この日に向けて、北アメリカ国際布教総監・秋葉玄吾老師を中心に準備されたスタッフの国際布教師の皆様方に心より御慰労申し上げます。

平成24年9月6日に、当時、教化部長であられた釜田隆文・現宗務総長が導師のもと地鎮祭が執り行われました。現地での建築許可や諸般の事情により、このプロジェクトも3年近く遅れておりましたが、ようやく上棟式を迎えることが出来ました。

今や海外で活動する宗侶は国際布教師も含め850名を数えるまでになりましたが、海外在住の外国籍僧侶にとって、このプロジェクトが推進されることは歓迎されるべきものであります。

振り返ってみますに、32～35年前、私が両大本山別院ロサンゼルス禅宗寺に駐在していた頃、曹洞宗直轄の専門僧堂をカリフォルニアのどこかに設置しようという話



があり、当時の宗務総長、大本山永平寺監院老師をサンタバーバラやマリブの山に不動産屋と一緒に御案内したことがあります。当時から、正伝の仏法を体得修行する伝統的僧堂がアメリカの地に建立される必要性を関係者は感じておりました。しかし、日本国内では国際布教というものがあまり認識されていない時代でしたのでその話は進展せずに終わってしまいました。

以来、「只管打坐」の実践を根底とする曹洞禅は、着実に海外の地に根を張って発展してまいりました。これも90有余年の永きにわたり、歴代の開教師・国際布教師の方々のご尽力の賜物であります。ですから、秋葉玄吾総監、はじめ尖秀雄老師が推進しているこの天平山禅堂プロジェクトの成就が一日でも早くなされることを望むと同時に、是非、宗議会において海外における宗立専門僧堂の設置の承認をしていただけたらと切に望むものです。

また、北アメリカ総監・秋葉玄吾老師が、奥様の支援を受けてオークランド市に好人庵禅堂を開単して以来20年という歳月が流れました。翌14日（日）には、創立20周年法要を大本山永平寺副貫主・南沢道人老師を導師のもと執り行いました。この法要は、関係者のみという事でしたが、秋葉総監のご人徳でご縁のある僧侶の皆様が日本よりご随喜されました。

終わりに、海外布教に携わった一人として、天平山禅堂が国際的拠点の一道場となるようレールが敷かれたことに感慨深いものを感じると同時に大変誇りに思います。まだまだ道半ばで、経済的サポートが必要ですので、秋葉総監に代わりなお一層のご支援をお願い致します。

… 海外レポート② …

ドイツ普門寺便り

禅センター・アイゼンブッフ大悲山普門寺堂頭　中川正壽（なかがわしょうじゅ）

こんにちは。尊董各位、皆様方。さて寄稿の依頼を頂戴したものの、ヨーロッパの動向という大きなテーマでは、対談はともかく何をテーマとすべきか模索しておりました。それで詰まるところは、私がこのドイツ普門寺でここにやって来る人々と接する中で見聞すること、それを通して感じること考えることをお伝えしたいと思います。

皆様方ご存知の通りただいまヨーロッパは激動のときを迎えております。そしてそれは個々人の心のあり方に色濃く反映されています。その個人が育ってきた家族また学校、その地域社会、国のあり方、教育、職場のあり方と、そのどれを取っても刻一刻と激変しており、その中で個人が圧迫されかつ個人では解決できないことばかりに取り囲まれており、また全体としても解決の糸口が見えないことばかりです。

ここに来る人たちはまず安らぎを求めています。門を通って普門寺の境内に入った途端に心に染み通ってくる安らぎと静けさを感じると多くの人たちが言っています。

これこそまさに私の誓願であり、山内のみんなが努力してきたところです。一応サンガの組織と建物も整い、境内も庭園も野菜畑も参加者とサンガのメンバーによって手入れが行き届くようになりました。摂心の折の個人面談でまたサンガの集いで多くの人がはっきりと口にします。「ここ普門寺は私のこころのふるさとです」と。この言葉に現代人の悩みとまた普門寺なるスピリチュアルな場の使命と課題があります。

ドイツの子どもは都会では二人に一人は両親が離婚しており、地方では三人に一人ということです。つまり母子家庭やパッチワークファミリーがどんどん増えているわけです。勿論大家族や親戚一同が集っているなどということはありません。若いカップルは、自分たちの両親とは違い永遠に続く夫婦を夢見て結婚して子どもが出来てしばらくすると離婚というパターンを踏んでいきます。善し悪しではない。夫婦や家族を一単位として支える社会的基盤が崩壊していっています。また職場にあっても学校にあってもデジタル化が進み情報と仕事量と仕事の速度に追いまくられています。うつ病が腰痛やガンと同じく蔓延しています。つまりこれは社会のあり方、日常生活のあり方の激変から来ていると思っています。

その中でこの普門寺が、家族崩壊と故郷喪失に晒されている人々に、まことに些細な僅かなあり方ではありますが、その人たちがスピリチュアルな個人の成長とその人個人の心の根っこをこの坐禅修行を中心とする普門寺の修行活動の中に見出してもらえるようにと努力しているわけです。

国際化の時代、スピリチュアルな分野においても、いろんな霊性文化、いろんな宗教が入り混じり、それらを何を基準にして判断してよいのか、何が自分に合っているのか、何を自分は必要としているのか、こうした問いの答えを見出すことが一層難しくなっています。

ここにあって私は道元禅師の宗派宗教を超えた「人間だから坐禅する」という根本を皆さんに伝え、一緒に坐禅をし、一緒に行食をし作務をして、時が来れば講話また提唱をし、個人対話をしています。枯山水の庭園に至るまでのウォーキングメディテーション、また大きな石やヤナギの大木を見ながらの呼吸瞑想、その際の私の言葉、これらは非常に心に響くということです。一人ひとりに、この普門寺で学んだことを各自の日常生活で実践をして、その実践修行するところを自らのふるさと、拠り所とし、それをまた家族を支える根っこにしてもらいたいと願っては努めています。

来年創立満20周年を迎える禅センター・アイゼンブッフ大悲山普門寺の具体的な活動内容や各コースの詳細またこれまでの経緯についてはホームページwww.eisenbuch.deをご覧下さい。なお日本語版はただいま再構成中ですので、英語かドイツ語版であればリアルであり、またビデオもあります。

最後に皆様方からは創立から今日に至るまで多大のご支援を物心両面にわたって頂いて参りました。この場をお借りして心より厚く御礼申し上げまた今後も応援をいただけますようによろしくお願い申し上げます。

2015年10月15日記

… 国内レポート …

大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師650回大遠忌・ワークショップ参加報告

大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師650回大遠忌には、海外各地から国際布教師と団参が集まり、21日から22日の日程で献香諷経が厳修されました。（21日献香諷経／南アメリカ国際布教総監 采川道昭老師、22日献香諷経／ハワイ国際布教総監　駒形宗彦老師、ヨーロッパ国際布教師クレボン道環老師、南アメリカ国際布教師 佐藤鴻舟老師、前北アメリカ国際布教総監 ルメー大岳老師、曹洞宗国際センター所長 藤田一照老師）

また、21日夜間には三松閣大講堂において、講師に曹洞宗国際センター所長 藤田一照老師とボディーワーカーの藤本靖氏を迎え、「安楽の法門としての坐禅 ～正身端坐の参究～　Zazen as the dharma gate of joyful ease」と題した曹洞宗教化部国際課主催のワークショップが開催されました。

藤田一照老師からの案内で、ワークショップはまず近くの人と握手をして、簡単な挨拶を交わすことから始まりました。これで会場の雰囲気が打ち解けたものへとガラリと変わりました。世界のどの地方から来たのかを挙手で改めて確認してみると、各地から集っていることが分かりました。

「道元禅師は安楽の法門を説いているが、長い間、我々にとっては痛みと緊張の法門だった。それは坐禅が悪いわけではなく、アプローチが悪いということに気付き、そこでもう一度坐禅を学び直した。」「そのプロセスにおいて、ここにいる藤田靖さんに出逢った。今日は彼から学んだ割り箸を使って深層筋のリラックスを感じるワークと、紐を使って水平を感じるという二つのアプローチを紹介したい。」

「坐禅の姿勢を例に取ると、理想の姿勢に向かってそれをしようと試みるのだが、それでは上手く行かない事が多い。自分の身体に合った姿勢でなければならない。」「身体に良い姿勢を押しつけるのではなく、身体の自己調整機能に学びながら自分にとっての理想の姿勢を体得する。理想の姿勢になるために筋肉を緊張させるのではなく、逆に筋肉を緩和させて、力みを取ったうえで身体から良い姿勢を探していくことが必要。」

藤田老師から続いて藤本靖氏へマイクがバトンタッチされ、いよいよ具体的なワークに入ります。意識やコントロールが難しい「深層筋」にアクセスするための体験として、実際に2人ペアになり、割り箸を使って顎の深層筋を感じるためのワークを行いました。一人が仰向けになり、割り箸を片方（右側）の奥歯に挟みます。その右側にもう一人が座り、肩や腕や脚などにやさしく触れます。しばらくして、割り箸を外し静かに体を起こして脚を組んでみます。奥歯で噛んでいた方の側の筋肉のリラックスを、感覚の変化としてどう感じたかをチームで話し合います。

次は、紐を使って身体の水平を感じるアプローチです。紐を横隔膜のラインに軽く結んで立ってみます。海岸から海に入り、だんだん深く紐のラインまで水面が来ているイメージを作ります。手を前に出し海面に手を浮かせ、横隔膜が水面に広がるようなイメージで息を吸い、吐きます。

両中指を左右それぞれの耳の穴に入れ、親指で耳の後ろ側をつまみ、そっと外側に広げていきます。これは、目のラインの水平を感じるためのワークです。

和やかにこうしたアプローチに挑戦したあと、この日体験したイメージを感じながら、もう一度坐りなおし、この日のワークショップは終了となりました。

（ＳＺＩ事務局記）

2016年 SOTO禅インターナショナル 総会のお知らせ

日程／2016年2月9日(火)
15時より 定例総会
会場／檀信徒会館 蘭の間

黒柳博仁師より海外徒弟研修会の報告があります。
また、17時より懇親会を開催いたします。
(詳細は参加者に後日お知らせいたします)

※出席される方は、右のページのFAX用紙またはメールにて、1月10日(日)までに事務局までご連絡ください。

FAX：0562(44)4936
e-mail：jizoji@ma.medias.ne.jp
【問い合わせ先】ＳＺＩ事務局(淺井) 0562(46)1963

動静報告 2014年12月～2015年11月

12月10日(水)	役員会	(銀座浅野第3ビル)
	忘年会	(銀座ダベッピーノ)
1月26日(月)	役員会	(檀信徒会館松の間)
2月 9日(月)	総会	(檀信徒会館蘭の間)
	懇親会	
6月12日(金)	役員会	(檀信徒会館松の間)
6月13日(土)	天平山禅堂上棟式随喜	(北アメリカ天平山禅堂)
6月14日(日)	好人庵禅堂創立20周年法要随喜	(北アメリカ好人庵禅堂)
7月27日(月)～8月2日(日)	海外徒弟研修会	(北アメリカ)
9月10日(木)	大本山永平寺ワークショップ	(大本山永平寺講堂)
10月21日(水)・22日(木)	法定聚会に伴う国際布教師関連諸行事随喜	(大本山總持寺)
11月13日(金)	編集会議	(八重洲リザーブドオフィス)

movie お勧め映画

Buddhist

今を生きようとする人たち

『はじまりの島』(2012年)の後藤サヤカ監督が、2年の歳月を費やして日本と世界を駆け回り、6人の僧侶の活動を追ったドキュメンタリー映画、「Buddhist ー今を生きようとする人たちー」を紹介します。

このドキュメンタリーは、"今を生きようとする僧侶たち"が、仏の教えを通して、個(自身)と社会を見つめる活動を、それぞれの切り口で行っている様子を追っています。

【出演者】
ネルケ無方さん
(ドイツ出身・曹洞宗安泰寺住職)
藤田一照さん
(愛媛県出身・曹洞宗国際センター所長)
星覚さん
(鳥取県出身・曹洞宗僧侶・ベルリン在住)
吉村昇洋さん
(広島県出身・曹洞宗普門寺副住職・臨床心理士)
麻田弘潤さん
(新潟県出身・浄土真宗本願寺派極楽寺衆徒)
三浦明利さん
(奈良県出身・浄土真宗本願寺派光明寺住職)

監督／後藤サヤカ(1984年兵庫県生まれ)
制作・配給／合同会社メイジュ
2015年／カラー／デジタル／70分

※上映スケジュール及び自主上映会開催の申し込みについては、公式サイト(http://buddhist-movie.com/)をご覧ください。

SZI express

会費納入者・賛助金納入者名簿 2014年11月1日～2015年10月31日まで

ありがとうございます。
大切に使わせていただきます。

■ 助成金 (順不同・敬称略)

曹洞宗宗務庁
大本山永平寺
大本山總持寺

■ 会費納入者ご芳名 (順不同・敬称略)

仏光寺
石雲寺
玄光庵
興徳寺
可睡斎
匿通庵
清龍寺
長泰寺
松源寺
天周院
龍泉院　北條正興
東栄寺　大森篤史
龍澤寺　別府良孝
建福寺　安野正樹
補陀寺　大山陽堂
栄林寺　櫻井孝順
東正寺
苗秀寺　大谷俊定
自性院　鈴木道雄
愛知県第2宗務所
東善寺
一心寺
聖光寺　田中哲彦
西田寺　嗣永典子
松源寺　佐瀬道淳
正麟寺
真昌院　亀野哲也
宗泉寺　柴山輝行
長福寺　長尾龍心
西光寺　小原智司
洞安寺　大山浄心
宝泉寺　栄川道昭
満蔵寺　森田英仁
曹洞宗埼玉県第2宗務所
中野東禅
宗清寺　飯島尚之
新豊院　水野克彦
松月寺　宮尾智恵
観音寺　関　光禅
般若寺　藤川享風
鈴木友子
天徳寺　細川正善
興龍寺
倫勝寺
松月院
福島ピーエス観光
祥雲寺
秀林寺　計良弘信
大興寺
盛徳寺　竹内信之
華厳寺　綾部誠司
重林寺　月出俊典
㈲オモロ
長泉寺　福島幸隆
大蔵寺　佐藤直道
龍澤寺　関岡俊二
俊朝寺
仁叟寺
観音寺　安本正道
青眼寺　水町宗典
妙源寺　橋川隆道
大乗寺　東　隆眞
長泉寺　石月聰明
興国寺　辻　淳彦
昌雲寺　久保敦義
瑞応寺
高林寺　猪俣典孝
乗福寺　中泉俊堯
松野宗純
傳心寺　大沢惠明
興源寺　田宮隆児
妙本寺　吉谷大惠
信松院　西村和裕
信香院
真光寺　岡本和光
宝泉寺　江川辰三
東竹院　岸　世一
熙仙寺
洞林寺　吉田俊英
兵庫県第1宗務所
祥雲寺
保善寺　上村勇雄
光照寺
秀源寺　飯島誠之
宗傳寺　瀧池泰乗
蔵福寺　武田秀嗣
満友寺
神野哲州
玉宗寺
仏母寺　小野俊惠
龍見寺
東昌寺　長谷川昌光
法輪寺　秋田新隆
愛知専門尼僧堂　青山俊董
吉祥院　矢　廣仲
喜運寺　磯貝昌隆
橋堀眞英
清巌寺　来馬宗憲
林叟院　鈴木包一
中央院　荒澤義範
奈良康明
善光寺　黒田博志
縁徳寺　山田栄一
龍寶寺　梅田良光
大船観音寺
雲岩寺　川橋範子
大光院　田中俊光
見龍寺　池田好斉
長光寺　福島伸悦
善覚院　渕詰尚道
長福寺　稲田泰山
大川寺　棟方宣之
安禅寺　高山正勝
天徳寺
長松院
寿松木宏毅
石井清純
永興寺
洞雲寺　千田幹雄
嶺雲寺　廣田俊和
㈱安江　安江英雄
東泉寺
禅昌寺　横山泰賢
山本健善
大泉寺
宗竜寺　児玉重夫
大昌寺　青島孝宗
興禅寺　市川智彬
佐藤信嗣
普済寺　岡部雅明
隆縁寺　内山秀三
高西寺　関岡俊二
智性院
吉祥院　猿盛和三
常円寺　阿部光裕
渡邊禅悦
正翁寺　亘　素明
宝持寺
寿昌院　山田宗雄
円通寺　小泉悟道
瑞仙寺
永明寺　石田征史
西有寺
秋葉玄吾
宝珠寺
満福寺
善通寺　宍戸十善
宗徳院　松永寛道
静勝寺　高崎忠道
全昌院　安達良元
成願寺　廣澤道秀
海蔵寺
永明寺　加藤孝正
洗耳寺　長田敬道
永沢寺　岡島博司
埼玉県第1宗務所
安穏寺　黒金義範
地蔵寺　浅井宣亮
佐藤慧真
乾徳寺
宗仙寺　細川浩代
善徳寺　西山道樹
明光寺
元長寺
興禅寺
常圓寺　角田泰隆
長命寺
観音院
磐石寺　梶田恵光

■ 賛助金納入者ご芳名 (順不同・敬称略)

龍泉院　北條正興
補陀寺　大山陽堂
栄林寺　櫻井孝順
松源寺　佐瀬道淳
西光寺　小原智司
洞安寺　大山浄心
宝泉寺　栄川道昭
般若寺　藤川享風
鈴木友子
天徳寺　細川正善
意眼院　高橋道弘
福島ピーエス観光
盛徳寺　竹内信之
長泉寺　福島幸隆
龍澤寺　関岡俊二
俊朝寺
青眼寺　水町宗典
長泉寺　石月聰明
高林寺　猪俣典孝
乗福寺　中泉俊堯
傳心寺　大沢惠明
興源寺　田宮隆児
妙本寺　吉谷大惠
信松院　西村和裕
真光寺　岡本和光
宝泉寺　江川辰三
兵庫県第1宗務所
祥雲寺
宗傳寺　瀧池泰乗
蔵福寺　武田秀嗣
神野哲州
玉宗寺
龍昌寺
東昌寺　長谷川昌光
源際寺　坂下康之
清巌寺　来馬宗憲
林叟院　鈴木包一
観徳寺　山田栄一
見龍寺　池田好斉
長光寺　福島伸悦
大川寺　棟方宣之
安禅寺　高山正勝
天徳寺
長松院
石井清純
永興寺
㈱安江　安江英雄
東泉寺
㈲石夢工房
宗嵐寺　児玉重夫
普済寺　岡部雅明
隆縁寺　内山秀三
高西寺　関岡俊二
智性院
吉祥院　猿盛和三
常円寺　阿部光裕
石雲寺　兼貫成悟
宝持寺
秋葉玄吾
宝珠寺
満福寺
宗徳院　松永寛道
静勝寺　高崎忠道
成願寺　廣澤道秀
海蔵寺
永明寺　加藤孝正
永沢寺　岡島博司
地蔵寺　浅井宣亮
乾徳寺
宗仙寺　細川浩代
明光寺
元長寺
磐石寺　梶田恵光